

神奈川県における 特別支援教育の取組み

神奈川県教育委員会
教育監 笠原 陽子

1

1. これまでの取組み

(1) 神奈川の支援教育

「神奈川の支援教育」とは、障害のある子どもや不登校など、さまざまな課題を抱えた子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに、適切に対応していくことを「学校教育」の根幹に据えた教育。

- S59 「共に学び共に育つ教育」
- H14 「教育的ニーズに応じた働きかけをする支援教育」
- H19 「共に育ちあう教育」(教育ビジョン)

2

(2) 支援教育の推進

○ 教育相談コーディネーターの養成 (H16～)

小学校. 1001人 中学校. 560人 高校. 656人

(養成数 H16～H26の延べ人数)

○ 理解・啓発(フォーラムの開催リーフレットの配布等)

○ 交流及び共同学習

○ 各学校の実態を踏まえた取組み

☆「○○スタンダード」の取組

☆SSEの取組

☆地域の学校と特別支援学校と連携した
「授業に生かすユニバーサルデザイン」

3

《修悠館スタンダード(別紙)》

取組が目指したもの

○「わかると楽しい」を通して、生徒の自尊感情を高め、新たな可能性を導きだし、

○自立と円滑な社会参加を「やったら、できた」を通して実現させるためのツールとして、

○生徒の特性とともに変化しながら、共生社会を目指す取組である。

4

2. これまでの成果と課題

〈成果〉

- 気づきやニーズに応じた対応が進む
- チームによる支援が進む
- 教育相談コーディネーターの養成が進む

〈課題〉

できるだけ同じ場で共に学ぶ取組が進まなかった。

5

3. そこで今後は、

- ① できるだけ地域の学校で学ぶ
- ② できるだけ通常の学級で学ぶ
- ③ できるだけ高校で学ぶ
- ④ 多様な学びの場の整備
- ⑤ 地域で共に生きるしくみづくり

6

「支援教育の理念のもと、共生社会の実現に向け、できるだけすべての子どもが同じ場で共に学び共に育つことを目指す」



インクルーシブな学校づくり(合理的配慮)

○学校づくり

○学級づくり

○授業づくり

○地域連携づくり

7

H26年度の取組み①

〈県立高校改革 基本計画〉

○重点目標の一つとして

「共生社会づくりに向けたインクルーシブ教育を推進します。」

〔重点項目〕

- ・すべての県立高校で取り組む神奈川の支援教育の充実
- ・インクルーシブ教育の新たな展開
(障害のある生徒に高校教育を受ける機会を拡大)

8

H26年度の取組み②

〈理解啓発〉

○インクルーシブ教育推進フォーラムの開催

- 理念の理解を目的としたフォーラム
- 年4回、県内4ヶ所で開催
- 690人の参加

9

H27年度の取組み①

○体制整備

課の新設（H27・4）

インクルーシブ教育推進課



— 小・中学校から高校までの
連続した学びの場での推進 —

10

H27年度の取組み②

〈義務教育段階〉

○ みんなの教室モデル事業

- ・市立中学校でモデル事業を展開

〈後期中等教育段階〉

○ 県立高校2校での研究開発

- ・綾瀬西高校;通級の仕組みを活用した指導
- ・釜利谷高校;就労に向けた自立支援の指導

〈理解・啓発〉

- ・インクルーシブ教育推進フォーラムの開催
(年3回)

11

H27年度の取組み③

《正しい理解のために》

○ 総合教育センターが行う全ての年次研修で

「インクルーシブな学校づくり」の講義を実施

- ・神奈川の支援教育について
- ・インクルーシブ教育システムについて
- ・インクルーシブな学校づくりについて
- ・今後の方向性

12

インクルーシブ教育システムについて

- 世界の動向
- 国の動向
- 障害者の権利に関する条約
- 障害者差別解消法
- インクルーシブ教育システム
- 学校における「合理的配慮」とは
- 事例から考える「合理的配慮」①②
- 基礎的環境整備と合理的配慮

13

4. 差別解消法への対応

(1) 行政機関等における障害を理由とする差別の解消

《合理的配慮》

- 国公立の学校：法的義務
- 学校法人：努力義務



「LITALICO(りたりこ)」の調査

- 小中学生の保護者の70%は知らない。
- 小中学校の教員でも43%は知らない。

(H27.4.30 神奈川新聞)

14

《現状の把握のために》

基礎的環境整備及び合理的配慮の実施状況に係る調査

【調査の目的】

障害者基本法の改正により、障害者に対して合理的配慮を行うこと等が示されたことを踏まえ、今後のインクルーシブ教育の推進に資するため、平成26年度における基礎的環境整備や合理的配慮の実施状況を課程ごとに把握したうえ、課題の整理等に係る分析を行う。

- 調査対象の期間 平成26年度の間
- 調査対象の課程 高校：全日制、定時制、通信制の課程ごと
中等教育学校：前期課程と後期課程を通して
- 調査の方法 質問紙による回答

15

(2) 現在の体制(本県)

紛争の解決・相談等に対応

○校内委員会の設置状況(H26)

小学校：100% 中学校：100% 高校：100%

○市町村教育委員会

○県教育委員会(学校支援課)

県立学校等を支援

16

《今後に向けて》

「対応要領」・「対応方針」（国）

法に対応できるよう組織的な検討

- 紛争解決・相談
- 地域における連携
- 啓発活動
- 情報収集等

教科を超えてできる
こと

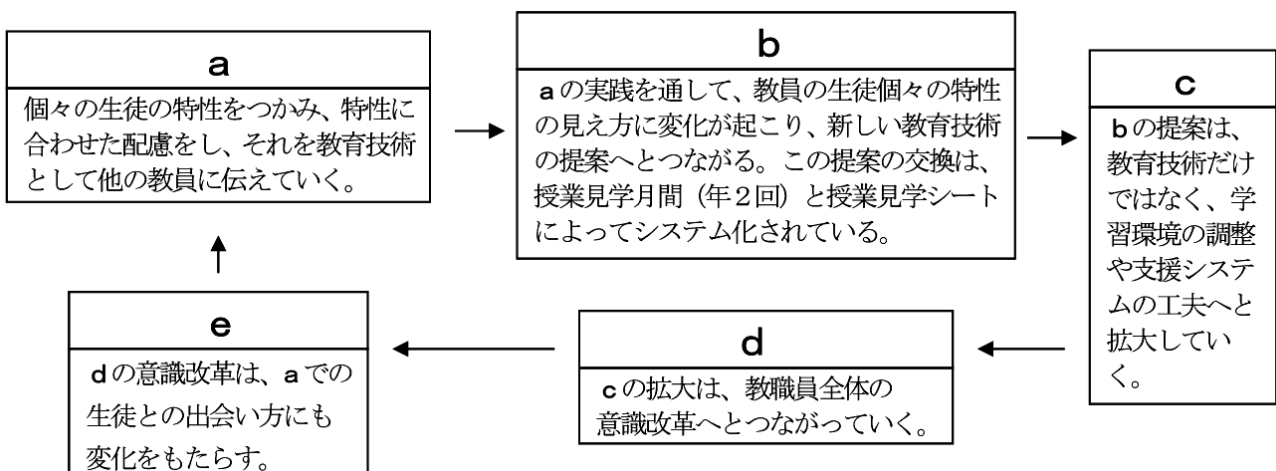
「修悠館スタンダード(スクーリング)」(ver.7.44)

コンセプト

- ◆ 「(発達障がいのある生徒に対する) 無いと困る支援」が、
「(全ての生徒に対する) あると便利な支援」になる。
- ◆ スクーリングについて来られない生徒に目を向け、メンタル面までフォローする。
- ◆ **〈ネタ〉の楽しさ**、**活動の楽しさ**、**わかる楽しさ**
 〈ネタ〉とは、ことば・話題・しぐさや話し方・教材・教具・実験・流れ・・・・
- ◆ 「支援教育」と「学力向上」の2つを同時に実現しようというチャレンジ!
 「誰もがわかる授業」に向けて。 (ver. 8へ)
- ◆ まずは、「簡単にできそうなことから」

「修悠館スタンダード」について・・・考え方のエッセンス

- ◇ 「修悠館スタンダード」は、通信制高校のユニバーサル・デザインを基にした学習支援の方法を教職員全体に呼びかけるものです。
- ◇ 単位修得率向上を目指してスタートしたユニバーサル・デザイン化が様々な面での変化をもたらしました。



a～eのような変化が、修悠館スタンダードをたえず更新させ、そのあり方を可塑的なものとしてきた。

(次ページに続きます)

1. 「修悠館スタンダード」は、ユニバーサル・デザインを基にした修悠館高校独自の取り組みです。
2. 「修悠館スタンダード」は、教育技術のみにとどまるものではなく、レポートの体裁、学習形態や支援体制の工夫、教職員の意識改革にもつながるものです。
3. 「修悠館スタンダード」は、生徒だけでなく、教える側にとっても効率的であり、効果的でなければ意味がないと考えます。
4. 「修悠館スタンダード」は、バージョンが上がる度に取り組みの領域が広がっています。
5. 「修悠館スタンダード」は、教職員や生徒が気付いたところで、できるところから手を付け、少しずつ進めていく、という地道な努力でできています。

そのために、「簡単にできそうなところから」、まずは始めていきましょう。

でも、

6. 「修悠館スタンダード」は、全体に提案されたもので、強制力はありません。
7. 「修悠館スタンダード」は、提案されたものをどこまで実践するかは、各担当に委ねられています。
8. 「修悠館スタンダード」という指針を教職員全体で共有、実践し、日々のスクーリング改善に生かしていくことで、生徒の学ぶ意欲の向上と潜在能力を伸ばす適切な学習指導へとつなげます。
9. 修悠館では、シンプルで、取り組みやすい統一されたレポートへの改善「修悠館スタンダード(レポート)」にも取り組んでいます。
10. 「修悠館スタンダード」をより良くしていくために、

議論を深め、意見を重ねていき、一つ一つ進めていくことが大切だと考えています。

1. 本鈴 5 分前～本鈴

準備 1 : スクーリング開始時はきれいな黒板を心がける。

準備 2 : ていねいで大きめの文字、罫線。

行間をとり、チョークの色を工夫する。

①チョークの置き場所は黒板に適度に分散させる（左、中央、右）。

準備 3 : 出席票の書き方を板書等で明示し、口頭でもくり返し伝える。

すぐに回収する場合は、

①回収しながら、記入や受講の誤りがないかを確認。

②生徒の顔と出席票の名前を照らし合わせると、覚え易い。

③教卓に出席票を座席順に並べて、**座席表代わり**にする。

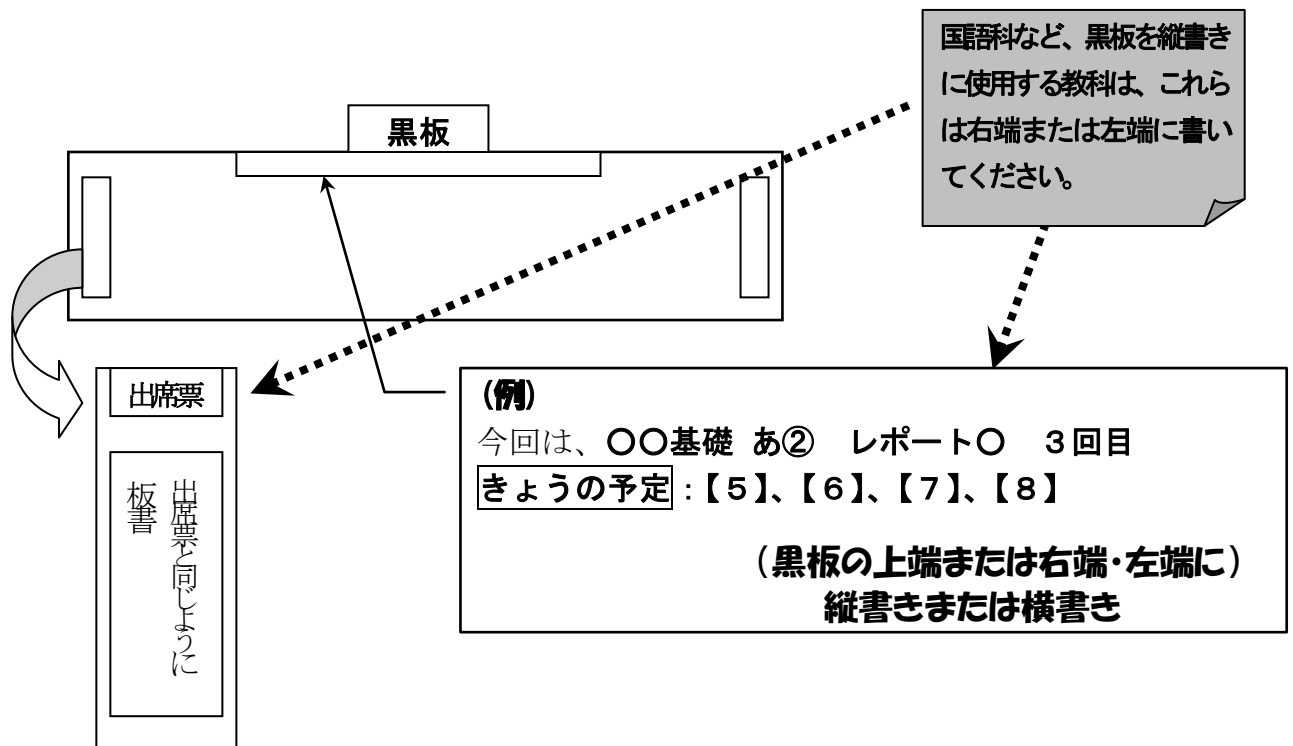
準備 4 : 「レポート〇」 △回のうち、今回は第◆回目のスクーリングであることを板書等で明示する。

きょうの、このスクーリングは、「〇〇基礎 あ②」、対象クラスは〇□組です。
担当は、私「〇□」です。

きょうは、〇月 △日 □△曜日。今は、〇校時目です。

レポート〇の3回のうち、今回は第3回目のスクーリング、です。

きょうの、このスクーリングで、このレポートは完成します。



2. スクーリングのなかでの心がけ

はじめに：①今日のスクーリングの予定を示す。

(きょうは、問〔 〕から〔 〕までを説明する予定です。)

②流れや手順を明確にする。

(前回は、こんなことをやりました。今回のスクーリングでは、こんなことをやります。)

③はじめと終わりを明確にする。

(では、〔 〕の問題に入ります。これで〔 〕は、終わりました。つぎに〔 〕です。)

スクーリング 1：板書の工夫（黒板の分割など）をする。

①「**枠の効果**」を利用する

伝えたいこと、重要なことを**枠の中**に書く。

②**板書は整理して**

③意味のまとまりで区切り、スペースを空ける。

④改行する際は、ひとつの言葉が2行に渡らないようにする。

スクーリング 2：教科書・資料集・レポートのページ、問題番号を目立つように(チョークの色を変える、番号や記号を囲む、など)板書する。

① レポートの解答となる部分は、チョークの色を変えるなどで、目立つように。

(チョークの色の意味を伝える)

注意チョークの色について、見やすくするために使ったことが、“色”に注意が向いてしまい、かえって、分からなくなってしまうことがある。

スクーリング 3：机間支援(机間巡視)を行う。

①生徒一人ひとりの理解の様子・レポートの進み具合を確認。

②机間支援(机間巡視)時の添削(○を付ける)は、生徒の達成感を高め、自信を付ける効果がある。

③添削できなくても、生徒のやっていることを確認するだけでもよい。

気持ちの隅において
(普通のスクーリングの流れに影響
な程度)

スクーリング 4：話し方・口調・使う言葉・用語についての心がけ

① 一回の指示で、一つの内容を心がける。← (レポート作成にも応用可能)

② 指示は短く、簡潔で具体的にひとつずつ。

③ 二重否定は避ける(「通れないことはない」→「通れる」)

④ 「言葉を略さず、気持ちや考えがきちんと伝わる言葉」で話す。

⑤ 語調に変化をつける。

⑥ 言葉のイメージ力を生かす。

⑦ 否定ではなく肯定的表現、賞賛と肯定の言葉を使い、自信を持たせる。
ほめる材料はいくらでも見つかる。

- ⑧ 達成感が感じられる授業を目指す。
- ⑨ 質問での追い込みは避ける。(投げかけて、考えさせる。)
- ⑩ 抽象的な言葉は具体的な言葉に、難しい用語や説明はやさしい言葉に言い換える。
- ⑪ 長い説明は、細分化。(1つ目は、…。2つ目は…)
- ⑫ 一言一言ゆっくり、繰り返し話す。(繰り返しは端的に)
- ⑬ (難しいですが、) スピードよりも丁寧さに重きを置く。
- ⑭ 声量ではなく、はっきり聞こえる話し方や声の出し方の工夫をする。

スクリーン 5 : その他の心がけ

- ① 生徒への目配り (生徒の動き・反応をよく見る) をする。
- ② 話の内容を精選する。
- ③ 適切な時間配分になるよう、工夫する (生徒も安心して取り組める)。
- ④ 生徒の作業時間を確保する。
- ⑤ 単元での「キーワード」をうまく利用する。

こんなときは

「教師がほめても生徒があまりうれしそうではない」ときは？

ほめるより、勇気付ける

生徒をほめることは大切とされていますが、「勇気付ける」ことも大切です。

二つの違いは、「ほめる」のは、期待されていることが達成できたときのご褒美で、貰い慣れると飽きてしまい、感動やうれしさが薄れることがあるのに対して、「勇気付ける」のは、達成できたときだけでなく、失敗したときも、あらゆる条件で“共感的態度”で接することです。「勇気」は自尊心、所属感を失わないでいられる態度です。(アドラー)



◆みんなが見やすい色環境への配慮

□色の見え方が他人と異なる子どもは、各クラスに一名ぐらいの割合でいます。

色は見えているが、色の組み合わせや環境・条件によって似かよって見えてしまう生徒がいる。色の見え方が他人と異なる生徒への配慮、状況に応じた配慮と指導で、バリアを低くすることができる。

(例)配慮が必要な色の組み合わせ

「緑と灰色・黒」、「ピンクと白・灰色」、「赤と黒」、「ピンクと水色」

形や大きさを変えるなど、色以外の情報を加える。

色名だけで示すのではなく、位置・形を補足して、指示棒やポインターを使って説明するなど色以外の情報を加える。

(具体例)

掲示物・プレゼンテーション → ①色の数を少なくし、色の多用に注意する。色以外の情報を加える。
②文字と背景の色には、わかりやすい組合せの色を使用し、明暗のコントラストがはっきりわかるようにする。

色刷りの資料 → ①(基準として)白黒コピーをしても、判別できるものが良い。

地図 → ①使用されている色分けは言葉で説明する。

体育の実技 → ①ピフス(上に着るベスト状のもの)、タスキ、鉢巻きなどは、見分けにくい色の組み合わせは避ける

理科実験 → ①「色が変わりました」ではどう変わったのか分からないので、右手を高く上げ、「こちらはピンクになりました」といえば、理解しやすい。
②色の変化の程度が判断できるように、文字で表現するなどの工夫をする。

写生や自然観察、実験・実習 → ①色使いが異なった生徒がいても、叱らない。
②個々の見え方・感じ方を大切にする。位置と色を具体的に示す。

造形や工作 → ①個々の見え方や感じ方を大切にする。

板書 → ①黒板は明るさが均一になるように照明を工夫する。
②色チョークを使用する場合は、アンダーラインや囲みなど色以外の情報を加える。
③黒板は、常にきれいな状態を保つ。

採点・添削 → ①色の見え方が他の人と異なる子どもがいることを考慮して、色鉛筆やペン・サインペンの太さ・色を選ぶ。

◆ティーチングとコーチング

スクーリングにおけるコーチングは「生徒の自立をサポートするシステム」
自分のスタイル(ティーチング)に少しずつコーチングのエッセンスを意識してみる。

ティーチング

教える、指示する
答えを与える
ヘルプ
(助ける、与えるイメージ)
結果重視

コーチング

対話、指示(少ない)
質問
答えを引き出す、共に考える
答えを作り出す
サポート
(あとひと押し、下から支えるイメージ)
プロセス重視

◆簡潔で、具体的な指示を1つずつ(分かりやすい情報の整理)

(例)「ちゃんとしなさい、きちんとしなさい、しっかりしなさい、人の事も考えなさい」などがあるが、
これらは具体性がない。

「ちゃんと、きちんと」は、たとえば、「足と手をそろえて、顔を上げて」等と言い換えるとよい。

(補足)

生徒への対応・指示の基本姿勢として、「生徒への対応・指示が統一されている」、「分かりやすい情報の整理」が大切です。

「教員によって対応や指示、言い方がまちまち」だと生徒は混乱してしまい、また、
同じ内容を伝えていても、その表現や言い回しが異なると生徒に意味が伝わらない場合
があります。

◆言葉を略さず、気持ちがきちんと伝わり、やさしい(平易な)言葉で話す

- (例1) **副読本** → (生徒に実物を示しながら)教科書と同じように使います
参院選 → 参議院議員を選ぶ
難問 → 難しい問題
余震が続く → 地震が1回だけでなく、何回も起きている

(例2) 「きのうの約束どおりに、きょうは来てくれたね、ありがとう。うれしいよ。」

◆前置き、接続詞で意識付けをする

◆指示や説明と活動を分離する

活動の目安を示す

(例) (このくらいだと、2分くらいかな、前の時計で、〇〇まで・・・)。

◆生徒の行動を示してから板書する

何も言わず板書を始めると、生徒は板書を書き取るのか、そうでないのか困ってしまいます。

→ やるべき行動を指示する。

◆見通しをもたせる

(例) **3つあります。1つ目は、……。**

◆終わったら、次に何をするかを予め伝えておく(次の行動を予告する)。

3. その他のスクーリングに関すること

その他 1 : 教室変更

- ① 教室変更の際は、混乱しがちな生徒がいるので、教室変更の掲示だけでなく、**案内の教員**がいると親切。
- ② **掲示場所の統一**や掲示用紙の色・大きさ・書式の統一ができるの良い。

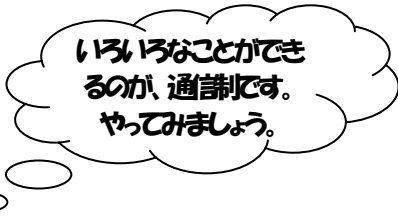
その他 2 : 補助プリントの活用 (視覚に訴えて、「わかる！」)

その他 3 : 教具・実験などの活用 (視覚に訴えて、「わかる！」)

その他 4 : 電子黒板・電子教科書・プロジェクタなどの活用 (視覚に訴えて、「わかる！」)

その他 5 : タブレット端末など情報機器の活用 手書きノートとして、カメラ機能、ビデオ機能など (五感に訴えて、「わかる！」)

その他 6 : スタイル (「楽しい！」が一番！)



いろいろなことができるのが、通諺です。
やってみましょう。

〈ネタ〉の楽しさ

活動の楽しさ

わかる楽しさ

〈ネタ〉とは、ことば・話題・しぐさや話し方・教材・教具・実験・流れ・・・・

レポートの答えを写すだけのスクーリングにならず、
出席したら、面白い話が聞ける、面白い経験ができる、
わかる・できるようになった！

また、スクーリングにでたいな！！・・・“楽しい”スクーリングに。

その他 7 : レポートの改善

- ① 修悠館では、シンプルで、取り組みやすい統一されたレポートへの改善「**修悠館スタンダード(レポート)**」に取り組んでいます。
- ② 「**修悠館スタンダード(スクーリング)**」と「**修悠館スタンダード(レポート)**」で、生徒の学ぶ意欲の向上と潜在能力を伸ばす適切な学習指導へとつなげます。

その他8：教科間のスクーリング見学

① 他教科のスクーリングを見学することで、いろいろな発見があります。

- 教科内のスクーリング見学に比べて、
- ①見学時間がとりやすい。
 - ②見学される側もプレッシャーが少ない。

その他9：画像や映像として残す（タブレットの機能を使うと簡単です）

① 記録として残す。スクーリング改善など。

4. ver. 8へ

ヒント1：「誰もがわかる授業」に向けて

「支援教育」と「学力向上」の2つを同時に実現しようというチャレンジ！

ヒント2：レポート以外にも様々な方法で関心を持ってもらおう

ヒント3：新しい試みに取り組むことで、新しい課題が見つかったり、面白い工夫につながっていく。

5. バージョンアップ情報：6.31 → 7.44

- ① **5. バージョンアップ情報** を加えました。
- ② 「**コンセプト**」をひとつ増やしました。
- ③ 「**修習館スタンダード**」について、に「**考え方のエッセンス**」の図と説明を加えました。
- ④ 2. スクーリングのなかでの心がけ
「◆みんなが見やすい色環境への配慮」色覚異常の生徒に対する配慮を加えました。
併せて、「◆ティーチングとコーチング」の配置も見直しました。
- ⑤ **スクーリング 4**、**スクーリング 5**に加筆しました。
- ⑥ **4. バージョン8へ** を加えました。
- ⑦ 用語、表現、レイアウト、文章の区切りなどを見直し、字句の修正をしました。
- ⑧ **資料**「スクーリング見学週間コメントとまとめ」について、“教科会でのまとめ”も加えて、「スクーリング見学週間のまとめ」となるようにしました。
- ⑨ **資料**「スクーリング見学週間コメントとまとめ」に“キャリア科”を加えました。
- ⑩ **修習館スタンダードに基づいた環境調整の例**の写真を一部入れ替えました。

◆まずは「簡単にできそうなことから」。
◆なかなか学習が進まない、成績下位の子どもたちの学力形成のいかんは、
「先生方の教え方にかかっています」

修悠館スタンダードに基づいた環境調整の例



【写真 1、 2】環境調整の例…空きスペースでの生徒自習用机・椅子の並び
(机の脚の位置を示すマークが床に貼ってある)



【写真 3】環境調整の例…校舎や学習室の場所の示し方



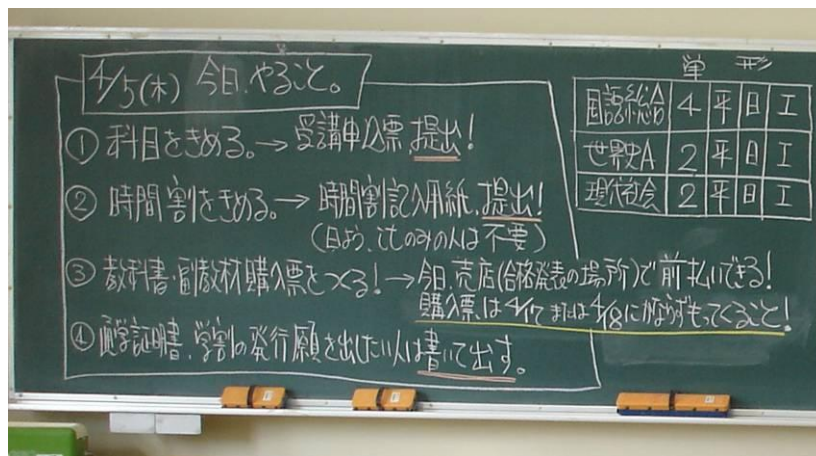
【写真 4】環境調整の例…学習室の掲示



【写真5】環境調整の例…シンプルな学習室



【写真6】環境調整の例…スクーリング開始前に本時の内容、スクーリングに必要なものを示す。出席票の記入。



【写真7】「修悠館スタンダード」(枠の効果)に基づいた板書例



【写真8】環境調整の例…目的別に色分けした掲示板

資料

平成27年度 スクーリング見学週間についてのコメントとまとめ

教科名	スクーリング見学週間コメント (教科会でのまとめ)	学校全体で参考になる点 (修悠館スタンダードにつながる点など)
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○早めに教室をあけ、早く来た生徒に対応していた。 ○教養を高め、国語に関心を持たせる働きかけがなされていた。 ○大きな声でゆっくりと丁寧に話していた。 ○補助プリントを活用していた。 ○学習内容のアウトラインや問題をあらかじめ記入していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○レポート以外にも様々な方法で国語への関心を持たせようとしていた点。 ○授業前の空き時間をうまく活用していた点。 ○アウトラインや問題をあらかじめ書いておくことで、内容や解法の理解に集中させやすい点。
地歴 公民科	<ul style="list-style-type: none"> ○パワーポイントを有効活用していた。 ○パワーポイントは、絵や図版や写真を多用し、生徒の視線をあげることに役立っていた。 ○パワーポイントを使うことで、教員の動きにゆとりや自由度が生み出されていた。 ○パワーポイントを用いずに、写真や図版を有効活用し、生徒の関心を高める試みがなされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい試みにとりくむことで、新しい課題が見つかったり、面白い工夫につながっていく。修悠館スタンダードの規制の側面ではない、創造の側面に踏み込んでいる実践を見ることができた。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> ○レポートに取り組む時間、板書を見る時間を明確に指示していた。 ○説明が短すぎず、長すぎず、生徒の実態に合わせてポイントを押さえて行われていた。 ○複数回机間巡視をし、きめ細かい個別指導をしていた。 ○レポートに取り組む時間を与えて正解者には○をつけることで授業に対する達成感を与えていた。 ○休み時間を利用して授業準備をしていた。 ○声の大きさ丁寧な板書の仕方など良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○やることの明確な指示。 ○集中力をきかせない授業展開。 ○達成感が感じられる授業。 ○生徒一人一人のつまずきに対しての個別対応。 ○字の大きさや明瞭な声の大きさなど、生徒にとって理解の補助になる。

<p>理科</p>	<p>○補助プリントを活用していた ○スクーリング中に生徒がレポートに取り組む時間を作り、その時間に採点や進度の遅い生徒に対しての個別の指導をしていた。 ○生徒の興味関心を引くような演じ実験を行った。</p>	<p>○生徒への指示を明確にする。 ○レポート完成や定期試験の受験、単位修得についても説明を丁寧に行う。 ○学力の低い生徒について個別に対応する。 ○「スクーリング内容、出席票、注意」の黒板での提示では、枠の効果の使い方がとても参考になった。 ○解答そのものを示さず、机間指導でチェックしていく方法(○付けをするのではなく、インク付きスタンプで時間を短縮している。)はよい。 ○解答そのものを示すところとそうでないところを区別する。 ○「省エネ率 97%」を「100円→3円(エネルギーお得率)」などの言い換え。 ○スクーリングの始まる前から、終わるまで1時間分すべてを見学することで、自分とは異なるスクーリング展開の仕方を学ぶことができ、大変参考になる。 ○修悠館スタンダードにも書かれているが、「前回のスクーリング内容の確認、今回のスクーリング内容の提示」はとても大切だと思う。 ○スクーリング中でも、レポート・教科書の該当箇所を示すようにしている。 ○この単元での「キーワード」をうまく使っていた。</p>
<p>保健 体育科</p>	<p>○記入が遅く、書くことが苦手な生徒のために、直接教科書にマーカーさせ、後でレポートへ記入させるようにしていた点が、参考になった。 ○スクーリング中に生徒がレポートをまとめる時間を作り、その時間に採点や進度の遅い生徒に対しての個別の指導をしていた点が、参考になった。 ○コミュニケーションが苦手な生徒が多くいるので、教員側の指示でグループを作り、会話のきっかけとしてあいさつ等をするなど生徒同士のコミュニケーションが活発になるように工夫していた点が参考になった。 ○今回は体育の取り出しのスクーリングで行った。対象生徒の体力等に応じて種目や運動量を調整し、(歩行器を使用生徒)卓球を行った。ルールを変えるなど、生徒の能力や興味に合わせ実施していた。</p>	<p>○次回のスクーリングの予定(日程・レポートの回数・活動場所・種目等)をはっきり伝えていた(板書)。 ○前期、後期の最初にスクーリングでオリエンテーションを行い、実技への参加に対する不安を軽減した。 ○身体面・精神面等で実技への出席が困難な生徒に対しては、出席の満たし方として、視聴代替(コンテンツ・視聴報告)やオリエンテーションへの出席)提示を積極的にし、単位修得につながるようにしている。 ○取り出しの実技のスクーリングではあるが、それぞれの生徒の能力等の応じたルール変更、用具の活用など。</p>

<p>芸術科</p>	<p>○板書が整理されておりわかり易かった。 ○教材準備がきちんとされている。 ○本日の学習の順序が最初に説明されており生徒が理解しやすかった。 ○実技の時は場所を移動するなど生徒の活動しやすい体制が工夫されていた。</p>	<p>○必要なことを中心にわかりやすくはっきり示す。(話す。板書する) ○ひとりひとりへ目をむけて机間巡視やサポートを丁寧に行う。 ○ゆっくりしたスピードで進めよくできた点を評価し生徒に安心感を与える。</p>
<p>英語科</p>	<p>○ひたすら詳しく説明することよりも、ポイントを強調することで生徒たちの理解を深められる。 ○生徒に対する問いかけと、それに対する生徒からの応答、教員・生徒間のことばのキャッチボールの快適さ。 ○声の大きさや話す速さは概ねよい。 ○本時の該当箇所の明確な提示と、口頭での説明があった。(視覚優位・聴覚優位、両方への分かりやすさ) ○前回のレポートの回答から声を出して復習させることで、本時への学習にスムーズに繋がっていた。 ○積極的に音読させることで生徒も徐々に声を出し活動的になるので、英語は音を出すことが必須であると再確認した。</p>	<p>○大きく、はっきり、分かりやすい板書。 ○黒板全体でバランスよく板書され、左右を区切ってしきられてい点。書きすぎないこと。 ○音読など生徒が授業に参加する形を取り入れるようにする。 ○レポートを完成させる時間を十分に与えて、全体的に余裕を持って行う。 ○板書をしながら、指示を出さない。 ○明確で分かりやすい説明と指示。 ○仕切りをつけて分割し、要点を明示した板書。</p>
<p>家庭科</p>	<p>○スクーリング中に添削して回ることが、生徒に安心感を生み、質問しやすい雰囲気を作ることに繋がる。 ○レポートの問題にない部分の教科書の内容にどの程度触れることができるか、生徒の様子などによっても異なる。 ○生徒の理解を促すビデオ教材には研究の余地がある。 ○レポート提出やテストについての注意や確認が丁寧にされていた。 ○映像資料はどのタイミングで見せても、それぞれ一長一短があり、一つに絞るのは難しい。 ○今回は内容がいっぱい回のだったので、合同授業はいつも接していない生徒の様子かわからない為、板書にかかる時間や声かけのタイミングをはかるのが難しい。 ○ホワイトボードを利用するときは、生徒が見やすいように、角度を意識する。</p>	<p>○板書は文字を大きく書いてあり、見やすい。 ○板書に関係する教科書のページが一緒に表示されて、わかりやすい。 ○持ち物確認は、はじめに行うのがよい。 ○大きな声で話すことや、丁寧な話し方を、これからも心がける。 ○次回のスクーリングの指示が丁寧になされていた。 ○机間巡視が丁寧になされていた。</p>

<p>情報科</p>	<p>○センターモニターやプロジェクタを活用することで補助教材として理解を深める助けとなっていた。</p> <p>○実物投影機を活用することで、教科書本文やイラストをわかりやすく提示できていた。</p> <p>○平日登校講座はB棟3階の教室だけで展開することとしたので、教室を間違えている生徒に対してフォローがしやすい。</p>	<p>○ルビ入りの原稿見本を提示すると、漢字の読みが苦手な生徒は入力がかどる。</p> <p>○出席票ファイルが 実物と同じ様式でわかりやすい。</p> <p>○教員の教材提示系と作業指示系の作業を分けることで、授業進行上の負担を軽減し、生徒の指導に集中できる。</p>
<p>キャリア科</p>	<p>○(キャリア活動 I C)本時の内容をプロジェクタで投影。何をどの順に述べるかが示されていた。</p> <p>○12人の生徒の座席を口の字に設営。穏やかな声ははっきり届いていた。普通教室に生徒が散らばっている通常のスクーリングでは、生徒数の少なさに反して声が大きくなりがちだが、声量ではなく、はっきり聞こえる話し方や声の出し方の工夫が有効。</p> <p>○各生徒の性格、傾向を把握したうえで発言の機会、発言できなくても不安にならない配慮が行われていた。</p> <p>○外部の方を交えた実習の報告会は、充実していました。外部の方の使い方を研究したい。</p>	<p>○述べる順番の事前の提示はわかりやすさを生む。</p> <p>○声量ではなく、はっきり聞こえる話し方や声の出し方の工夫が有効。</p> <p>○外部の力の活用が有効である。</p>

